

科目名称	小児看護学概論	学年学期	単位数	時間数
		1学年後期	1	15
担当教員	豊田 ゆかり	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無	

【1】 授業概要

小児看護の対象となる子どもと家族を支援するために必要な知識を学び、対象に応じた小児看護ができるための必要な考え方を学習する。子どもと家族の健康生活に関連する法律・制度・社会資源について理解し、支援の必要な状況に応じて看護職として対応できるための活動を学習する。

【2】 学習目標

1. 子どもの権利(子どもの権利条約)について理解し、看護職としての考え方を身につける
2. 成長・発達原則を理解し、支援の必要性を早期発見できるように成長・発達を評価できる指標を理解することができる
3. 子どもの安全を守るために必要な、事故予防について理解することができる
4. 支援の必要な子どもと家族について理解することができる
5. 地域母子保健福祉について理解し、支援の必要な子どもと家族の状態に応じた、社会資源を理解することができる。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	子どもの権利条約について	講義
2	子どもの権利を守る看護職の対応	講義
3	成長・発達の原則と影響要因及び成長・発達評価の視点	講義
4	心理社会発達、学習と遊び	講義
5	成長・発達に伴う起こりやすい事故とその予防	講義
6	支援の必要な子どもと家族(医療的ケア児・発達障害児・ヤングケアラー・児童虐待等)	講義
7	子どもと家族の健康及び生活を支援する法律・制度・活動	講義
8	筆記試験・まとめ	講義

【5】 評価方法

筆記試験

【6】 教科書

奈良間美保 他、「小児看護学概論 小児臨床看護総論(第15版)」・医学書院 2026

【7】 参考書

授業の都度紹介します。

【8】 受講生へのメッセージ

AIが普及し、必要な情報や知識はインターネットを通じて得ることができます。その得た情報が正しい内容なのかその根拠を考え、困った時に自分で考え、対処できるための授業にしていきたいと考えています。